

平成三十一年度 入学試験（平成31年1月19日）

「国語総合」

戸田中央看護専門学校

一、次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。（問一の解答は記述式解答用紙に記入すること）

ノーベル賞作家のジョージ・バーナード・ショーが書いた『ピグマリオン』という戯曲があります。オードリー・ヘップバーン主演で大ヒットしたミュージカル映画『マイ・フェア・レディ』の原作です。書かれたのは1910年代、映画は1964年に製作されました。この作品には、声がどれほど多くの情報を持つのか、そして声を変えることでどれほど人生が変わるのかが見事に描かれています。古い映画なので、内容を簡単に紹介しましょう。

舞台は20世紀初頭のイギリス。主人公のイライザは下町の花売り娘です。ある夜、劇場から出てきた紳士（あ）シユク女にいつものように花を押し売りしては、罵ったり騒いだり。そんな彼女のうしろには熱心にメモをとっている言語・音声学者のヒギンズ教授がいました。教授はイライザの声を聴いて、親の出身地から育ち、性格までピタリと言いついで、「こんな下品な娘でも、訓練をすればシユクジョになるのに」と言い捨ててその場を去ります。

翌日、イライザは教授の家に押しかけ、「自分の店を持ちたいんだ。シユクジョにしておくれよ」とわめきたてます。すったもんだの挙句、住み込みで音声訓練を受けることに。

失敗を重ね、ときには泣いたりあきらめたりしながらも訓練を続け、やがてイライザは別人のように（い）変^{（い）}ボウします。ヒキガエルのような声から慎ましやかで上品な声になり、上流階級の品性までも身につけてしまったのでした。その結果、社交界デビューのパーティーで、声を聴いただけで正体を暴くスパイまがいの学者が「完璧な英語を話すどこぞの国の女王」だと（A）太鼓判を押すのです。

ちなみにこの映画が公開される前のミュージカル版がブロードウェイで大ヒットしていた時期に、政治家として初めてスピーチにヴォイストレーニングを取り入れたジョン・F・ケネディが第35代アメリカ合衆国大統領に当選しています。

以来、欧米では政治家やビジネスリーダーは声を磨き、スピーチのトレーニングをすることがあたりまえになりました。子どもの初等教育では言葉の教育の導入時期に、まず発声を教えます。言葉をいくらか教えても、それを伝える声の出し方が悪かったら意味がないからです。

ジョージ・バーナード・ショーが、声への関心を広めたこの戯曲を書いてからほぼ100年、日本では声に注意を向ける意識すら育っていません。

小学校に入ったら国語の教科書を読ませるだけ。小さな声でぼそぼそと読むと先生に「もっと大きな声で」と叱られるし、間違えたら恥をかく。これでは話すことに対する苦手意識をわざわざ植え付けているようなものです。読む側も聴く側も苦痛でしかなかった小学校での音読以来、人前で声を出すことが嫌になり、恐怖心すら持っている人がどれほど多いことでしょうか。

日本では学校でも親たちも、声の重要性や声の持つ可能性、自他に対する影響力など何も教えてきませんでした。だから ー とほとんどの人が思い込み、変えようもしないのです。

声という素晴らしい道具を持ちながら、多くの人はそれを使おうともしない。欧米諸国が声に真剣に取り組み始めてから100年たっても、声に意識すら向けない。それが日本の現状です。

企業のリーダー、教師、医師、弁護士、政治家などは、人に対しても社会に対しても影響力の大きな職業です。これらの人々は人の一生を、ときには生死をも左右しますし、その影響の積み重ねは国の方向性をも決めるといっても過言ではありません。当然ながらこれらの人々の職業上の発信やコミュニケーションは「声によつて」行われるのですから、声の役割とその重要性は言うまでもないでしょう。

□ 日本では、これらの職業の人の声にがっかりすることが多々あります。特に歴史のある大企業ほどトップの声は □ です。そういう企業は内部で役職を回しているだけだったり、採用のときから学力^③偏チヨウ^④だったりするせいでしょうか。

どこの会社とか銀行とはいいませんが、今は企業リーダーの音声付きの映像がインターネット上で簡単に観られるので、就活中の方はぜひ検索して聴いてみてください。

原稿を棒読みしているだけの眠気を誘う声、生き生きとした個性がまったく感じられない無機的な声、病弱で弱々しい声、陰にこもった声、^⑤キョウ暴^⑥そんな声など……。こんな声の人がトップである企業で働きたいのか、自分の直感で判断してみてください。どんな □ を並べていても、その言葉が心に響かなかつたら、声から安心感や信頼感を得られなかつたら、あるいは「何かがおかしいぞ」と声に^⑦イ和感^⑧を抱いたなら、その感覚こそを信じるべきです。

〈 中 略 〉

人の心は複雑です。言葉と心が常に一致してはおりません。むしろ矛盾を孕んで揺れ動いていることのほうが多いのではないのでしょうか。

心理学の分野から一般にも知られるようになった「メラビアン（メラビアンとも）の法則」というものがあります。人は矛盾したメッセージを伝達された場合、言葉の内容に7%、外見や表情といった視覚的要素に55%、そして声や口調などの聴覚情報に38%の反応をするというものです。

人は心の内を言葉だけで伝えてはおりません。むしろ言葉では伝えきれずにもどかしい思いをしたり、誤解されて苦しんだりすることのほうが多いかもしれません。だからメラビアンの法則を持ち出すまでもなく、内容が複雑になればなるほど言葉以外の方法、多くは □ で伝えようとするのではないのでしょうか。

言葉に込めきれない感情や迷いがあるのが人間で、それが □ 否オウ^⑨なく出てしまうのが声なのです。

声は意識して読み取れば、^⑩無^⑪ジ^⑫蔵^⑬のデータバンクです。同時に、聴くにまかせていけば、無意識に膨大な情報のシャワーを浴びることになります。

「言っていることは間違っていないけれど、どうもこの人は信用できない感じがする」とか、「何を話していたのかよく憶えていないのになんだか説得してしまった」などという経験はありませんか。それは相手の声があなただの無意識に作用し、真実を伝えているのかもしれないかもしれません。

視覚は意識的な感覚器です。目は自分の意思で閉じたり視線を移したりできますから、見たくないものは見ないでいられます。でも聴覚^⑭耳は閉じることができません。人の声も自分の声もいやでも取り込まれてしまいます。それが声の見えない影響力なのです。

問一、傍線部(あ)〜(き)のカタカナを漢字に直して答えなさい。

【記述式解答】

(あ)、シユク女 (い)、変ボウ (う)、偏チヨウ (え)、キヨウ暴
(お)、イ和感 (か)、否オウ (き)、無シン蔵

問二、傍線部(A)「太鼓判を押す」の意味としてもっとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。
【解答番号1】

- 1、誤る
- 2、嫌味を言う
- 3、保証する
- 4、誇張する

問三、空欄 に入る表現としてもっとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。
【解答番号2】

- 1、声は大きければいい
- 2、声は生まれつきだ
- 3、自分の声に問題はない
- 4、人は言葉ではなく、声によって動かされている

問四、空欄 に入る接続詞としてもっとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。
【解答番号3】

- 1、そして
- 2、けれども
- 3、なぜなら
- 4、しかし

問五、空欄 に入ることばしてもっとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。
【解答番号4】

- 1、解放的
- 2、意識的
- 3、絶望的
- 4、作為的

問六、空欄 に入ることばしてもっとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。
【解答番号5】

- 1、金科玉条
- 2、枝葉末節
- 3、一視同仁
- 4、美辞麗句

問七、空欄 に入ることばしてもっとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。
【解答番号6】

- 1、身振り手振り
- 2、アイコンタクト
- 3、声の調子
- 4、表情や態度

二、次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。(問一の解答は記述式解答用紙に記入すること)

私たちが言葉に対してもっている常識のなかには、実はとんでもない間違った考えも少なくありません。その典型的なものは、「(1)言葉とは物や概念の呼び名である」という考え方です。

私たちは物に囲まれて生きています。そして物の一つ一つには確かに名前がついています。テーブル、万年筆、本……こうした具体的な物ばかりでなく、愛、憎しみ、民主主義というような抽象概念や、赤い、暑い、重い……といった物の性質にもすべて名前があります。そのため、言葉とは名前のリストであり、それぞれの国語の単語が、キーンの事物や概念と一対一の対応をしているように思い込んでいる人が少なくありません。たとえば、「馬」という動物はラテン語でcaballus フランス語でcheval 英語でhorse ドイツ語でPferdと呼ばれているのだから、外国語を学習するということは、すでに知っている事物や概念の新しい呼び名を学ぶこと、いわゆる《単語の暗記》と思い込んでしまいがちなのです。

右にあげた例でしたら、英語ではtable, fountain-pen, book…; love, hatred, democracy…; red, hot, heavy…; であり、フランス語ではtable, stylo, livre…; amour, haine, démocratie…; rouge, chaud(e), lourd(e)…; であることを知っているからといって、それで英語なりフランス語なりを知っていると思いこむとしたら、実は大間違いだということを忘れてはなりません。英語のbeetにあたるフランス語のboeufは、群をなして歩いている生きた牛でもあるのです。

フランス語では、「いってまいります」、「ただいま」、「いただきます」等々を何と何とのか考えた末、それぞれJe m'en vais et je serai de retour. (直訳すると「私は出て行って、また戻るだろう」) `Maintenant! (直訳すると「今」) Je vais manger. (直訳すると、「私はこれから食べる」)と翻訳したという(2)笑話がありますが、これは今述べたような言葉と事物・カンネンが一対一で対応するという考え方から生じた誤りです。

私たちの生活している世界は、言葉を知る以前からきちんと区分され、分類化されているではありません。単語のもつ音の価値も、意味の価値も、その言語の体系のなかだけで決定されるのであり、言葉が、あらかじめ区切られた独立の存在である物や概念の名前でないということは、多くの実例が証明しています。のちにもくわしく見るように、言語を構成する諸要素は、その共存それ自体によって互いに決定しあつてゐるのです。概念は言葉とともに誕生し、それぞれの単語は全体の体系のなかにおかれてはじめて意味をもち、その大きさ、意味範囲はその単語を取り巻く他の単語によってしか決められませんが、キョクタンな例をあげれば、(3)日本語から「狼」という単語が時代を経て使われなくなるや否や、狼と呼ばれていた動物は「犬」という概念に包摂されてしまうでしょう。

それぞれ、「犬」と「狼」という語で指示される動物が、はじめから二種類に概念別されねばならないという理由などどこにもないのと同様に、あらゆる知覚や経験、そして神羅万象は、言葉の網を通して見る以前はどこにも境界線の引きようのない連続体なのです。「いってまいります」にせよ、「ただいま」にせよ、日本語にしかない概念で、決して万国共通のものではありません。

ケンシツにいうと、「馬」とhorseは同じ意味範囲を持っていませんし、horseとchevalも、chevalとPferdも同じではありません。親族構造にしても、父母、祖父母、伯(叔)父、伯(叔)母、兄弟、姉妹、従兄弟、従姉妹、子、孫、等々という分け方は実に自然なもので、いかにも(4)言語外にある血縁関係を反映しているように思われます。ところが、ヴァイスゲルバー(ドイツの言語学者。一八九九—一九八五)によると、オーストラリア中部のアランタ族の言語にあるpuruiaという語は、「①父方の

祖母の兄弟（日本語の「大伯（叔）父」にあたる）、②母方の祖母の兄弟の娘の息子（日本語には特別な言い方がない。「遠縁のおじさん」）、③自分の姉妹の息子の息子（日本語の「甥の息子」にあたる）のいずれをも指し、ngalaという単語は、「①母方の祖父（日本語の「祖父」）、②母方の伯父の息子（日本語の「従兄弟」）、③自分の姉妹の息子（日本語の「甥」）」のいずれをもカバーする概念だということです。

「ー」私たちにとって、太陽光線スペクトルの紫・藍・青・緑・黄・橙・赤の七色への分割ほど、客観的で、フヘン的な物理的現実に基づいたものはないように思われます。ところが、英語ではこの同じスペクトルを、purple, blue, green, yellow, orange, redの六色に区切りますし、シヨナ語（ローデシアの一言語）ではcipswu u uka, citema, ciceanaの三色、バッサ語（リベリアの一言語）ではhui, zizaの二色にしか区切らないという事実は何を意味しているのでしょうか。

（丸山圭三郎『言葉とは何か』ちくま学芸文庫より）

問一、傍線部（あ）く（お）のカタカナを漢字に直して答えなさい。

【記述式解答】

（あ）、キジン （い）、カンネン （う）、キョクタン （え）、ゲンミツ （お）、フヘン

問二、傍線部（1）「言葉とは物や概念の呼び名である」とあるが、これはどのような考え方か。もつとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。

【解答番号7】

- 1、物と概念とは、一対一の対応をしているという考え方。
- 2、物や概念に名前をつけることは、人間にだけ可能であるという考え方。
- 3、物の名前と、概念を表す語彙とは違うという考え方。
- 4、物や概念が先に存在し、言葉はその名前であるという考え方。

問三、傍線部（2）「笑い話がありますが」とあるが、なぜ笑い話とされているのか。もつとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。

【解答番号8】

- 1、挨拶は外国語を学ぶときにいちばん最初に習うはずなのに、すっかり忘れて自己流で翻訳しているから。
- 2、挨拶は一言で言わなければならないのに、長い文に翻訳してしまっているから。
- 3、日本語の挨拶の言葉を逐語的に訳しても、外国語では挨拶の言葉にはならないことに気がついていないから。
- 4、挨拶は、どこの国でもごく簡単な言葉で表現すればよいことを忘れて、ややこしく翻訳しているから。

問四、傍線部(3)「日本語から「狼」という単語が時代を経て使われなくなるや否や、狼と呼ばれていた動物は「犬」という概念に包摂されてしまうでしょう」とあるが、具体的にどういことを述べているのか。もつとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。 【解答番号9】

- 1、犬と狼は近い種類の動物なので、「狼」という言葉が使われなくなると「犬」という言葉はこれまでの「犬」と「狼」の両方を意味するようになるだろうということ。
- 2、狼が絶滅して「狼」という言葉も忘れられると、狼を見分けられる人がいなくなるため、狼は「犬」の一種として考えられるようになるだろうということ。
- 3、動物学的にはほとんど同類の犬と狼を、言葉の上で区別してきたので、狼という言葉が使われなくなっても、その区別は維持されるだろうということ。
- 4、狼が絶滅すると、それとともに「狼」という言葉の概念も失われるため、犬と、「犬」という言葉の概念だけが残るだろうということ。

問五、傍線部(4)「言語外にある血縁関係を反映している」とはどういうことか。もつとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。 【解答番号10】

- 1、血縁関係は、言語や文化や国籍を超えた人間同士の絆であるということ。
- 2、親族構造は言語には関係がなく、文化的な物であるということ。
- 3、親族を表す言葉は、生物学的な関係を厳密に表現しているということ。
- 4、血縁関係で結ばれた家族同士は、言葉がなくても通じ合えるということ。

問六、空欄□に入る接続詞としてもつとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。

- 1、しかし
- 2、また
- 3、なぜなら
- 4、ところで

【解答番号11】

問七、本文の内容に合致するものはどれか。もつとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。

【解答番号12】

- 1、挨拶の言葉は日本特有のものであるため、外国語に訳すことはできない。
- 2、外国語を学ぶということは、単語を暗記することに他ならない。
- 3、本来は連続体である知覚や経験は、言葉を通して区切られている。
- 4、翻訳をする場合は、一対一で対応する言葉に置き換える努力が重要である。

三、次の各文には、どのような文章表現上の技巧が含まれているか。1～4からそれぞれ選びなさい。

【解答番号13～15】

- | | | | | | | | | | |
|----|-----------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|
| 13 | 犬がワンワン吠える | 1、 | 比喩 | 2、 | 擬人法 | 3、 | 擬声語 | 4、 | 擬態語 |
| 14 | 風が叫ぶ | 1、 | 擬態語 | 2、 | 倒置法 | 3、 | 擬人法 | 4、 | 擬音語 |
| 15 | 彼女は一輪の花だ | 1、 | 引用 | 2、 | 隠喩 | 3、 | 隠語 | 4、 | 直喩 |

四、次の語の対義語を、1～4からそれぞれ選びなさい。

【解答番号16～17】

- | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 16 | 顕在 | 1、 | 内在 | 2、 | 偏在 | 3、 | 遍在 | 4、 | 潜在 |
| 17 | 穏健 | 1、 | 過激 | 2、 | 陰険 | 3、 | 非情 | 4、 | 凡庸 |

五、次の傍線部と読みが同じものを、1～4からそれぞれ選びなさい。

【解答番号18～20】

- | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 18 | 字面 | 1、 | 面長 | 2、 | 面積 | 3、 | 鼻面 | 4、 | 細面 |
| 19 | 構図 | 1、 | 絵図 | 2、 | 壮図 | 3、 | 企図 | 4、 | 版図 |
| 20 | 所望 | 1、 | 本望 | 2、 | 望見 | 3、 | 展望 | 4、 | 願望 |